伊奈波神社と電気

年十一月、伊奈波神社は名古屋郵便電

信局長へ、神輿の通行に支障があるた

伊奈波神社教学研究員 筧 真理子

年に中山道筋に電信線が設置されて 扱いが始まり、そののち電信網は全国 京・横浜間で電信による電報の取り は芝居小屋の旭座と大万繭問屋くら ろでも柳ヶ瀬で電燈を引いているの 出て、同年七月に開業しました。しか 四月に電柱の建設を岐阜県庁に願い とでした。岐阜電燈株式会社はこの年 は岐阜市が最初で、明治二十七年のこ われるようになったのは岐阜県内で に広がりました。岐阜県内でも明治五 制度です。明治二年(一八六九)に東 らですが、その最初といえるのは電信 活用されるのは明治時代になってか いで、美の繁呉服店は電燈とランプが (明治三十七年から同三十八年)のこ しなかなか需要は増加せず、日露戦争 ます。また、庶民の生活で電燈が使 電気を動力とする技術が暮らしに

> 半々、他の商店や家はランプに頼る暮 線・送電線が張り巡らされるようにな は送電のためのもので、所管が異なり ります。ちなみに、電信柱は通信、電柱 には電信柱・電柱が増え、街路に電話 務が始まりました。こうして道路沿い 話所が併設され、同四十年から電話業 た、同三十六年には岐阜郵便局内に電 えるのは日露戦争後のことでした。ま は明治三十五年度からです。需要が増 ですら、ランプから電燈への切り替え 重にしなければならない岐阜監獄署 限りで一斉に消灯しました。警備を厳 らしでした。しかも、電燈は夜十二時

濃尾震災で焼失した社殿が再営落成 してその遷座式が行われた明治三十 る最初は、祭礼の障害としてでした。 伊奈波神社と電気の関わりがわか

時処置でなく、そのまま維持されてい

ということでしょう。同四十五年に

たに架設されているので」と述べて 揚げられているが、その後おいおい たのでした。このとき、「既に昨年引き 線・電線は山車の通行に支障となっ 高さがあり、低く張り巡らされた電話 出す山車は清影車で四・七メートルの

V

るのは、前年の祭礼での引き揚げが臨

か 日 0 社では電燈有志金を集め、同年二月に 利祝賀などで伊奈波社頭に多くの つのが第二の鳥居と思われます。電燈 所は「第二の鳥居より奥」で、参道入口 境内三ヵ所に電燈を架設しました。場 たが、明治三十八年一月から伊奈波神 者のためには提灯や篝火を灯しまし なり高額に感じます。この電燈架設 当が四五銭だったことからすると は月五円前後で、このころの大工の 大鳥居が第一の鳥居、参集殿前に立 訪れるようになります。夜間の参詣 人

社祓所の土地を一○○日間借りて「ハ 明治三十五年二月に、端山忠兵衛が神 なったのはいつだったのでしょうか。

ノラマ」館を建設し、その借地料で大

のアーク燈を献燈しました。 社祭典では境内ニヵ所に一二〇〇燭 れます。明治四十五年一〇月の物部神 かれ、これが電燈ではないかと考えら 県社伊奈波神社之図」(写真2はその 部)には境内四ヵ所に灯りの柱が描

後一切電燈を使わないという相談を

しています。

それでは、神社で電燈を灯すように

鳥居に一○燭の電燈五○○個が二日 なります。明治四十五年の祭礼では両 ネーションとしても使われるように さらに、明治末からは電燈がイルミ

変わっていったのです。

照らすようになりました。電燈が生活 樹に五○○個の電燈を灯して夜桜を 大正初めからは花の時期に境内の桜 門・鳥居・忠魂碑などに掲げています。 止し、かわりに五○○個の電燈を神 は、明治天皇の服喪中のため余興を中

に普及するにつれて、社頭のようすも

はあまりないと聞いています。 でも電線を持ち上げる担当者が山車 き込み線で道路上空がゴチャゴチャ では、道を横断する電線や各家への引 がき(写真1、岐阜市歴史博物館所蔵) 認できます。柳ヶ瀬の昭和初期の絵は 話線・電線を引き揚げていたことが確 礼のたびに低い位置にある新規の電 り、少なくともこのころまでは春の祭 引き揚げを岐阜郵便局に申請してお です。大正七年(一九一八)にも電話線 のも理由のないことではなかった り、伊奈波神社が祭礼廃絶を心配する に各町に備え付けるようになってお 明治二十二年から山車を引き出さず 田祭では電線が理由の一つとなって とまで述べています。事実、東京の に随行しますが、実際に作業する必要 していたのがわかります。現在の祭礼 0

を地上六メートルまで引き揚げるこ された伊奈波神社周辺の電話線・電線 年には山車の通行のため、新規に架設 るという願いを出しました。同四十三 揚げたい、その費用は神社側で負担す め電信線を三日間一・五メートル引き

とを願っています。現在も祭礼で曳き

間点燈されました。大正二年の祭礼で たところ応じなかったので、町民は今 なる電線を除くよう電気会社に求め 高山祭りでは明治三十八年に障害と の費用は神社で負担していましたが、 なお、伊奈波神社では電線引き揚げ

対して恐れ多いので、該電線を地上約 までは祭礼廃止の恐れもあり、神霊に 式執行にたいへん差し支える。このま 設にかかる電線話・電燈線が増え、祭 は「近年は当市中到るところ個人の架

トル以上に引き揚げたい」

写真 '

はこのとき実現していません。パノラ ることを決定しており、鳥居前の電燈

館も契約期限が終わると取り払わ

人の無事を祈る人、旅順陥落などの勝

日露戦争が始まると、戦勝や出征軍

0)

電燈を大鳥居前に新設することと

燭(一燭はロウソク一本分の明るさ) 料亭・商店や個人に有志を募って五〇 に、同年七月には桜町など神社近くの そのため、日本海海戦の勝利を契機

しました。この頃に作成された「岐阜

子総代はパノラマ館の建設は認めま 大阪など全国で流行していました。氏 や模型などを使った見世物で、東京・ すらしく、パノラマ館は大規模な背景 物でした。祓所は善光寺前あたりを指 山道整備などの公共事業も行った人 員も勤め、小熊小学校創立や金華山登 商で祭典掛や氏子総代などの神社役 神社に申し込んでいます。端山は呉服 鳥居前に電燈を一年間奉納したいと

には電燈がなく真っ暗で、夜間に参詣 です。しかし、参道入口の大鳥居付近 集に努めており、かなり苦労したよう

たい人が諦めてしまう状態でした。

には神社の社掌(社司の下役)たちが

内をくりかえし回って有志者の募

たが、借地料はそのまま神社に納め

写真2